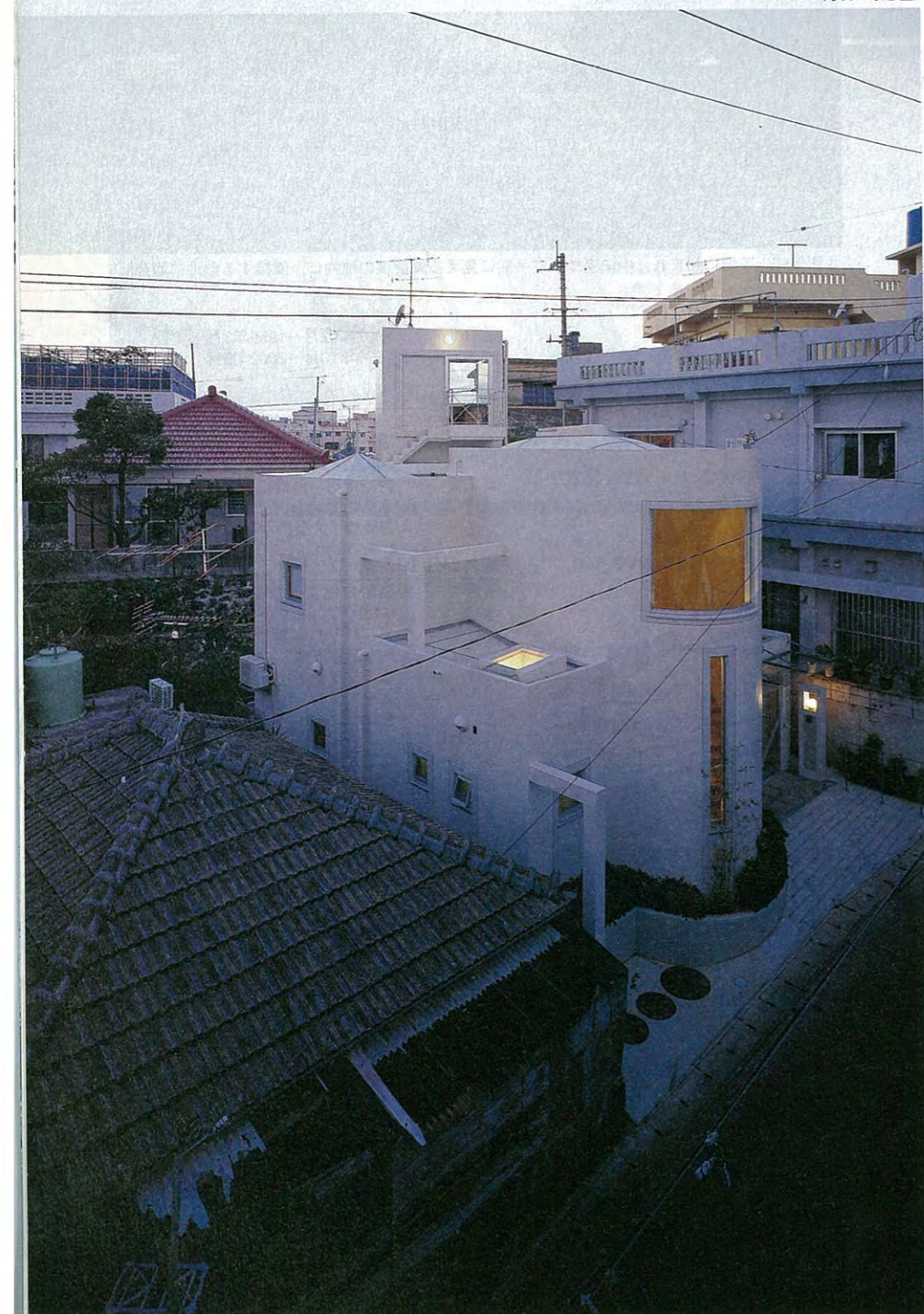


## ゆいまーる (沖縄市)

設計：福村俊治+空間計画VOYAGER 施工：阿波根組

# 中と外をつないでバリアフリーに

(写真：寺尾 豊)



東側外観。四角く飛び出しているのが展望書斎室。「ゆいまーる」とは「助け合い」を意味する沖縄地方の方言。家が新しくなって訪問客は増えたようだ。取材時もTさんを昔の教え子が訪ねていた

「バリアフリーの家」と聞いていたので、玄関を開けて驚いた。目の前には大きな吹き抜け空間が広がり、そこを囲むらせん階段が下に向かって続いていたからだ。このプランに驚いたのは建築主のTさんも同じだった。女性で一人暮らしのTさんは、10年前、高校教師をしていた50歳の時に脳内出血

をわずらい、左半身が不自由になった。歩行につえは欠かせない。「段差のない平らな家にしか住めないと思っていたので図面を見て感動した」と、設計当初を振り返る。

東西を道路に接する敷地には平均約3mの高低差がある。福村俊治+空間計画ボイジャーの福村俊治代表は、敷地条件を逆手に取り、



2階玄関に入ってリビングを見下ろす。Tさんは「最初は一人だと寂しいかなと思ったが、お母さんの子宮の中にいるように安心できた。とても明るくて圧迫感がない。閉鎖的ではないのに、プライバシーが守られている」と話す。「宇宙船みたいね」と言う来客もいる



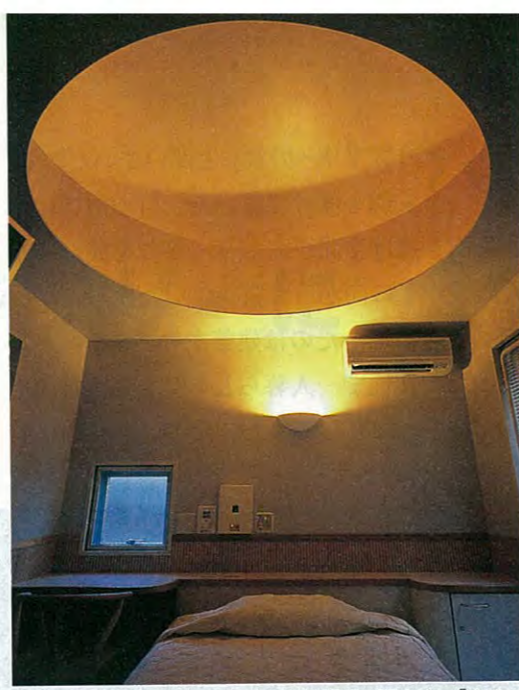
カーブを描くキッチンテーブルの内側がTさんの定位置。回転式のいすに座ったまま、冷蔵庫に手を伸ばしたり、洗い物をしたり、庭の景色を楽しんだり、何でもできる「飛行機のキッチンみたい」(Tさん)な場所

西側2階に玄関、東側1階に勝手口をつくり、だ円形のリビングで2層をつなげた。各階はホームエレベーターで移動する。リビング壁際のらせん階段は、リハビリ用だ。塔屋階には、「海が見える家に住みたかった」というTさんの夢をかなえる展望書斎室を設けた。

「バリアフリーは段差をなくすことと単純に考えていたが思い違いだった」と話す福村氏は、「大切なのは心のバリアをなくすこと。外に出るのが難しければ、家を“社会化”すればいい。だ円形のすごく変わった建物をつくれれば、人がたくさん集まるだろうと考えた。外と中をつなげようとも思い、家の中いながら自然環境を感じる工夫をした」という。

それが、天井高約6mのだ円形のリビングだ。直径1mのトップライトから差し込む丸い光は、時間の経過に合わせて部屋の壁を移動する。東側壁面の四角い窓と縦長の窓は、プライバシーを守りつつ外の景色を映し出す。展望書斎室に上ればバルコニーにも出られる。

Tさんは、「毎朝エレベーターで展望書斎室に行き、朝日を見ている。地球が動いているとはっきりわかり、小学生のように感動する。楽しくて、外出するのがもったいないくらい」と感じている。(大井 智子=フリーライター)



寝室。丸くデザインした天井を間接照明が照らす。「まるで月を見ているようで楽しい。朝、目が覚めてからも、夜、寝る時も眺めている」(Tさん)



西側玄関。東側と全く違うデザイン。上は展望書斎室

### バリアフリー 個人に合わせる

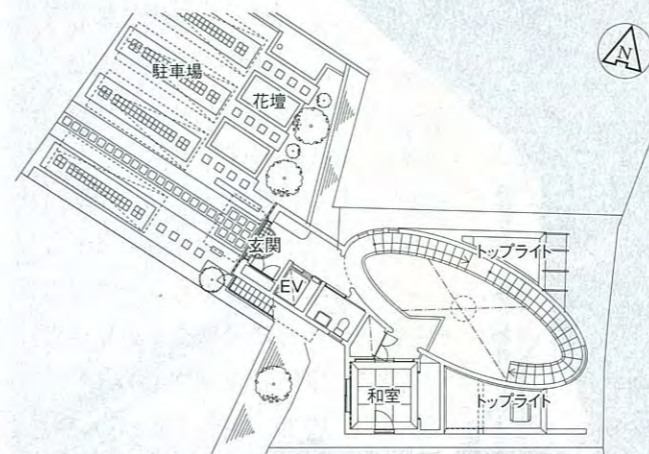
「望みは自立した暮らし。『新聞を自分で取って読む』など本当の日常生活は自分でできるようにしたかった」(Tさん)。福村氏は、「人によって障害はすべて違う。お風呂はどうやって入るか、右手だけでどうやってぞうきんを絞るか、何でも聞いた」と話し、それを設計に生かした。階段は、何センチなら上れるか相談して蹴上げの高さを10cmに決めた。日に2.3回階段を上り、エレベーターで下るのがTさんの日課となった。



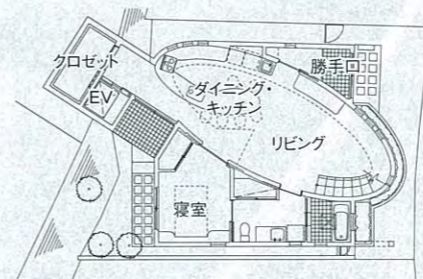
寝室から見たダイニング・キッチン(左)とトイレ(右)。横から縦へと続く手すりは目立たないように上部もそのまま連続させた。スチールの手すりを現場で溶接した



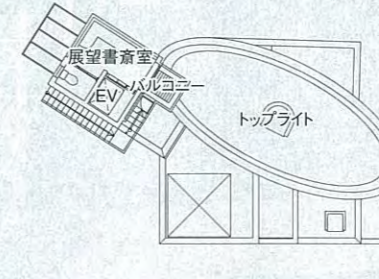
寝室、トイレ、洗面、浴室はフラットに一続きになっていて「夜中にトイレに行くのにとっても便利」(Tさん)



配置・2階平面図(1/300)



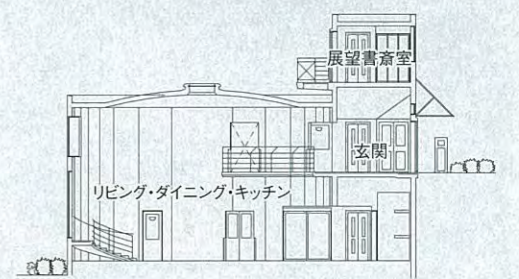
1階平面図



PH階平面図



東側勝手口の郵便受け。手紙や新聞は、室内からすぐ取り出せる



断面図(1/300)

### ■建築概要

名称	ゆいまーる
所在地	沖縄県沖縄市
家族構成	1人
地域・地区	第一種低層住居地域
建ぺい率	31% (許容50%)
容積率	52% (許容100%)
前面道路	西4.7m、東4.3m
駐車台数	4台
敷地面積	251m <sup>2</sup>
建築面積	80m <sup>2</sup>
延べ床面積	130m <sup>2</sup>
各階面積	1階75m <sup>2</sup> 、2階45m <sup>2</sup> 、PH階9m <sup>2</sup>
構造・階数	壁式鉄筋コンクリート造、地上2階+PH
基礎	鉄筋コンクリート布基礎
高さ	最高11.5m、軒高11.2m
設計者	建築：福村俊治+空間計画VOYAGER

### ■外部仕上げ

構造	バス建築研究室、西建築設計
事務所	サイン：HILOデザイン研究所
設備	Cai設備
工事監理者	福村俊治+空間計画VOYAGER
施工者	建築：阿波根組 電気：球電舎 空調・衛生：不二宮工業
設計期間	2000年8月～2001年3月
施工期間	2001年4月～2002年3月
屋根	ウレタン塗膜防水・スタイロフォーム30mm厚・押さえモルタル
外壁	コンクリート打放し補修・アクリルシリコン系複層仕上げ塗材・ゆず肌 ホーロー仕上げ
外まわり建具	アルミサッシ・シルバー

### ■内部仕上げ

リビング・ダイニングキッチン	床：テラフロア敷き、壁：コンクリート打放し補修・UE塗装、天井：コンクリート打放し補修・UE塗装
寝室	床：テラフロア敷き、壁：PB・UE塗装、天井：ベニヤ9mm張り・UE塗装
展望書斎室	床：テラフロア敷き、壁：コンクリート打放し・UE塗装、天井：コンクリート打ち放し補修・UE塗装、一部岩綿吸音板張り

### ■建設費用

総工費	3100万円
設計監理料	300万円
工費内訳	建築2380万円、電気200万円、空調・衛生350万円、外構170万円
工事単価	22万円/m <sup>2</sup> (外構を除く)